

令和4年度（第76回）
関東高等学校女子バレーボール大会

令和4年年6月5日（日）

	チーム名		チーム名
Bコート 第3試合			
決勝	<u>下北沢成徳</u> 都県名（東京都）	25-18 27-25	<u>八王子実践</u> 都県名（東京都）
主審 <u>屋貝 直也</u>	（ 茨城 ）		
副審 <u>小林 芳樹</u>	（ 山梨 ）		

（戦評）

決勝は過日行われた東京都関東予選の決勝と同じ顔ぶれ、東京対決となった。前回の対戦では下北沢成徳が八王子実践にストレート勝ちを収めたが、八王子実践のリベンジが成るか注目される。

下北沢成徳は1セット目序盤から強烈なスパイクを連発するが、対する八王子実践は巧みなブロックアウトやクイックで応戦し一進一退の攻防を繰り広げる。しかし下北沢成徳は1番谷島の連続サービスエースで突き放し、4点リードで給水タイムを迎えた。八王子実践もフェイントやタッチプレーを上手く使って追いつがるが、下北沢成徳は2番古川のブロック、スパイク、サービスエースで着実に点数を積み重ね、4番武田のブロックがダメ押しの1点となり、第1セットは25-18で下北沢成徳が先取した。

2セット目は序盤から八王子実践の緩急をつけた攻撃が決まり、下北沢成徳にもミスが重なって2-9でタイムアウト。その後は本来の高さとパワーを活かしたスパイクで応戦するが、八王子実践は上手さの光る軟攻が効果的に決まり、給水タイムを6点差つけて折り返した。追いかけていた下北沢成徳は1番谷島のスパイクとブロック、9番中田のブロックなどでじわじわと点差を詰めていく。16-16で追いつかれた八王子実践は4番瀧澤のスパイク、2番小林のブロックなどで反撃に転じ、20点に先に乗せる。しかし下北沢成徳も4番武田のサービスエースなどで同点とし、3番佐藤のパワフルなスパイクでついに逆転すると一気に抜け出した。八王子実践は二枚替えが功を奏しデュースに持ち込むが、最後は下北沢成徳のブロックポイントで、見事2年連続9回目となる優勝を飾った。

戦評者氏名 （ 楓 淳一郎 ）